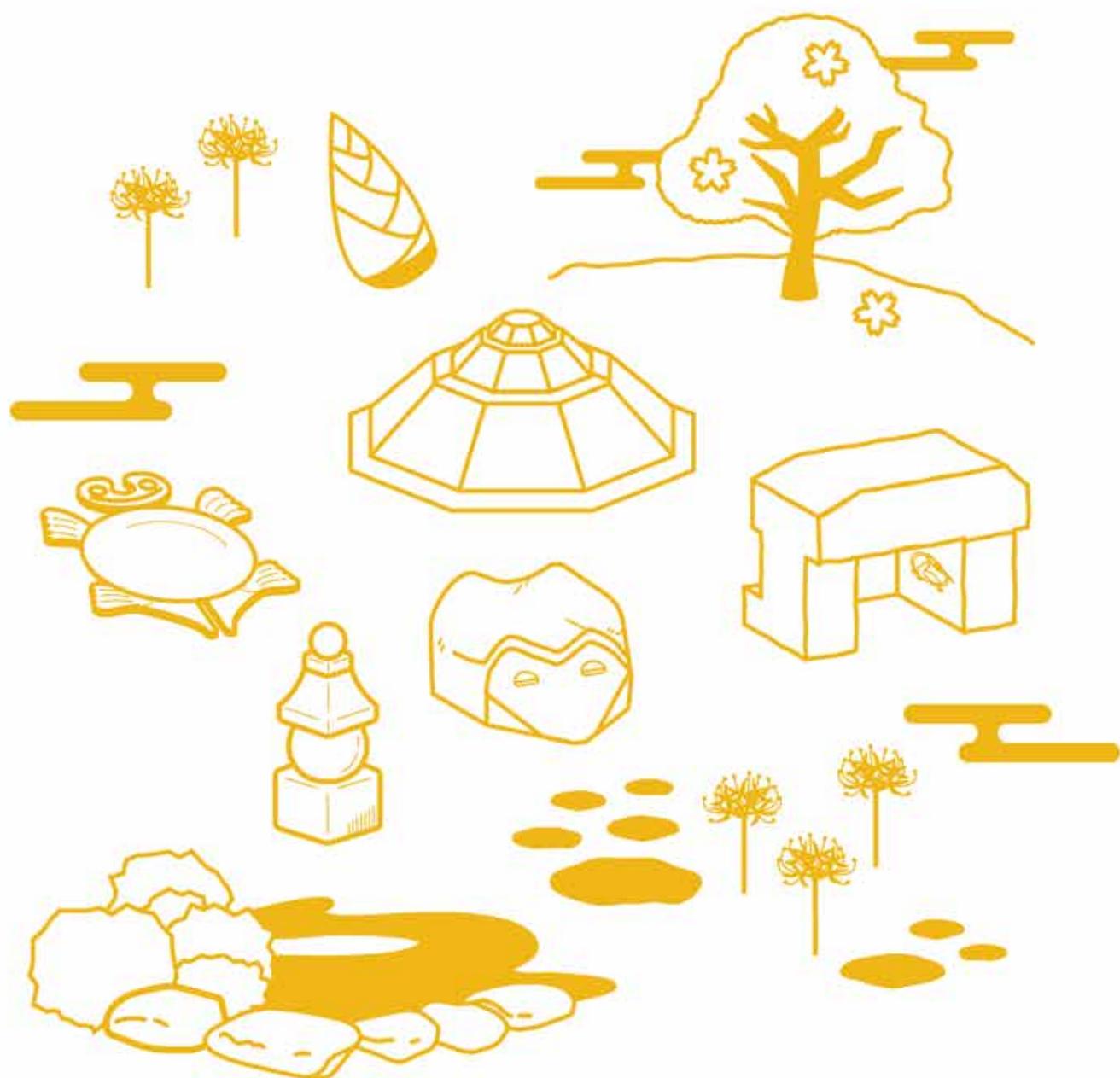


第5次明日香村総合計画

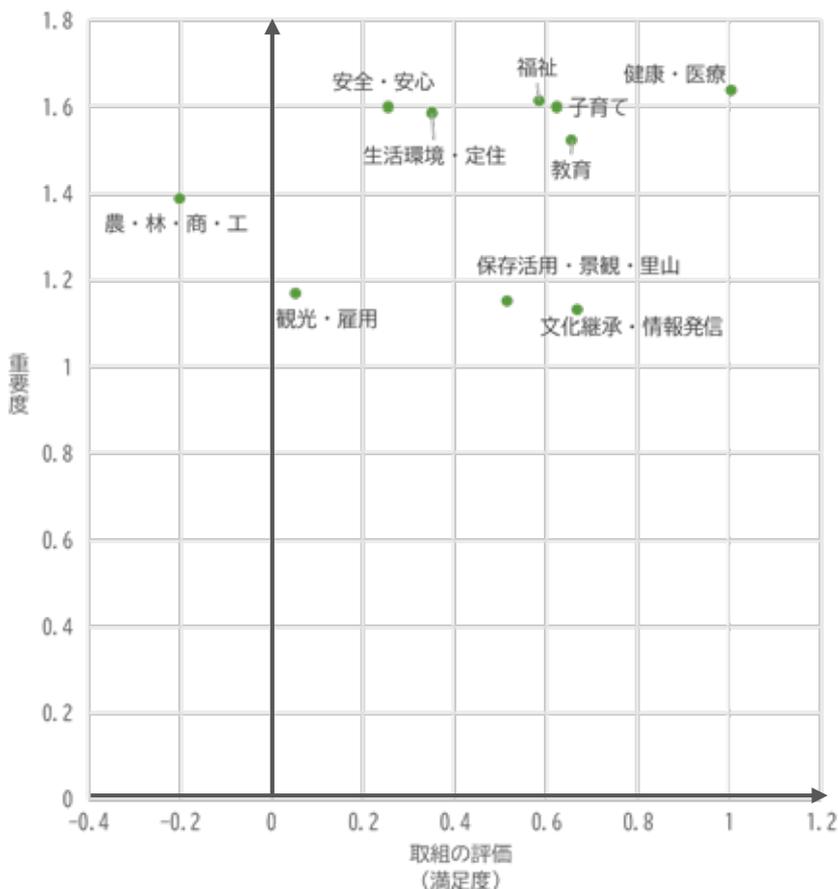
概要版



後期基本計画における明日香村の状況

前期基本計画の取組の評価と今後の重要度

住民アンケート調査（令和6年）では、前期基本計画の取組の評価（満足度）は、「農・林・商・工」が満足度が低く（マイナス）なっています。今後の取組の重要度は、全分野1（やや重要）以上となっています。グラフの左上（重要度が高く、評価が低い）「農・林・商・工」は優先して充実が求められる項目と言えます。



- 【子育て】明日香村で子育てしなくなる環境づくり(母子支援・保育支援・子どもの預かり等)
- 【教育】明日香ならではの教育環境の充実(幼小中一貫教育・学校経営・スポーツ・生涯学習等)
- 【福祉】地域で支えあう福祉活動の充実(シルバー人材・介護サービス・高齢者支援・障がい者支援・人権教育等)
- 【健康・医療】健康づくりの推進(健診・検診・医療費助成・予防接種・介護予防・診療所運営等)
- 【生活環境・定住】生活環境の整備・良好な市街地形成・秩序ある土地利用の促進(情報通信網・公共交通・道路・上下水道・ゴミ・し尿・定住促進等)
- 【安全・安心】災害等に備える安全・安心対策の推進(防災・防犯・耐震化・危機管理等)
- 【農・林・商・工】集い働き住みたくなる村づくり(有害獣対策・営農基盤整備・担い手支援・空き家活用等)
- 【観光・雇用】魅力の向上と交流による観光振興を踏まえた活性化の推進(企業受け入れ・起業機会の創出・情報発信・観光閑散期対策等)
- 【保存活用・景観・里山】歴史的文化的資産の保存と活用(世界遺産登録推進・歴史的風土の保全・都市交流による活動等)
- 【文化継承・情報発信】明日香の価値の継承と創造(伝承芸能継承・芸術文化活動・歴史展示等)

人口減少・少子高齢化

2017(平成29)年に過疎地域に指定され、2024(令和6)年4月1日現在、65歳以上の老年人口比率(高齢化率)は41.2%、14歳未満の年少人口比率は10.2%となっています。国全体の人口減少が進む中で、本村の人口減少を避けることは非常に難しい状況ですが、地域の社会経済を維持するために、一定の人口規模を維持することが重要です。

歴史的風土保全の担い手不足

人口減少と高齢化の進行、社会情勢の変化により、農地や樹林地の管理の担い手不足や空き家や廃屋の増加などによる歴史的風土への影響が懸念され、農村風景を維持するための担い手や、歴史文化資源を有効に活用して歴史的風土の保全につなげる担い手を確保していく必要があります。幅広く担い手を確保・育成するとともに、歴史的風土の保全に繋がる仕組みづくりを検討していく必要があります。

歴史的文化的遺産の活用推進

「日本国創成のとき～飛鳥を翔(かけ)た女性たち～」として日本遺産に認定、2026(令和8)年に世界文化遺産の登録を目指す「飛鳥・藤原の宮都」や、国連世界観光機関(UNWTO)による「ベスト・ツーリズム・ビレッジ」の認定を活用し、特色ある歴史的文化的遺産を活用した地域の活性化を推進することが重要です。

防災・安全への備え

近年では、従来では想定しえない深刻な被害を及ぼす自然災害が多発しています。世帯構成の変化や高齢化が進む中で地域防災の担い手不足、活動の減退が懸念されますが、自助・共助の精神を培い、みんなで大災害等を乗り切れる準備をしていく必要があります。

デジタル活用(DX)の推進

行財政、教育、交通、介護等、子育て・児童福祉、防災、インバウンド・観光、様々な分野において、地域の実情に応じてあらゆる分野でデジタル技術を有効に活用しつつ、デジタルトランスフォーメーション(DX)を強力に推進することが求められています。

世界情勢の影響

新型コロナウイルス感染症の世界的拡大は社会経済活動に大きな影響を与え、生活様式に根本からの変化をもたらすとともに、行政のデジタル化の遅れなどの課題も浮き彫りになりました。また、ウクライナの情勢悪化なども加わり、物価が高騰し、家計への影響もでています。

社会資本の老朽化

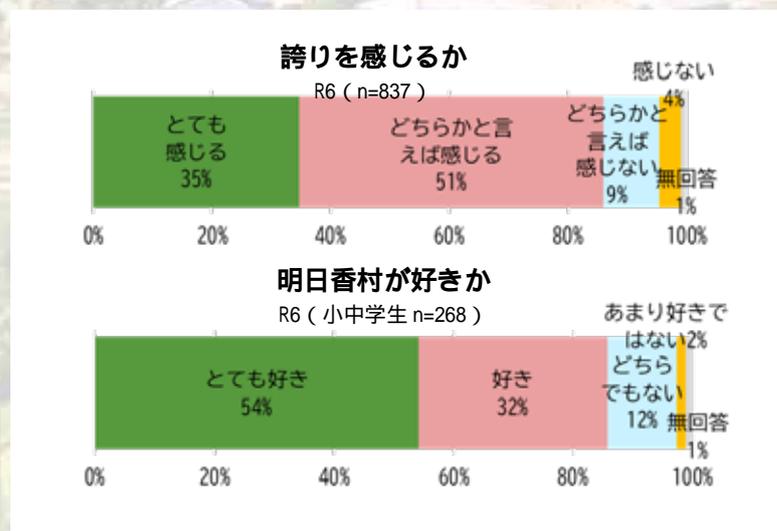
老朽化が進んだ道路や公共施設など社会資本の対策が急務であるとともに、人口減少や少子高齢化といった社会情勢の中で、社会資本に求められる機能やニーズも変化しており、施設の効果的・効率的な維持管理・更新に取り組む必要があります。

SDGsの推進

少子高齢化や人口減少等、地域課題解決をSDGsの理念を通じて推進する動きが広がっており、これまで継続されてきた歴史的風土を保全するための取組も持続可能な社会を実現するための取組と言えます。

住民の意識

住民アンケートでは、約9割が明日香村に誇りを感じています。
小学3～6年生と中学生を対象としたアンケートでは、約9割が「明日香村が好き」と感じています。



明日香村が目指すむらづくり

明日香村の価値



協働による村づくり

様々なノウハウや考えを持った多様な人材が、明日香村を支えるパートナーとして、みんなで地域課題を克服できる明日香村を目指します。



明日香村の目標 (将来像)

村民にとってより暮らしやすく豊かさが感じられる

**「いつまでも住み続けたい」
そう思える夢ある村**

来訪者にとって魅力的で村民も元気に。歴史文化・自然の輝き・人の営みを

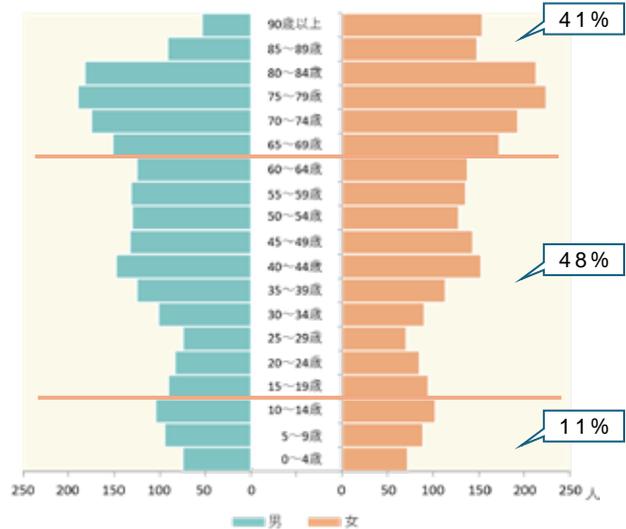
五感で体感できる

「明日香まるごと博物館」

将来の人口のフレーム

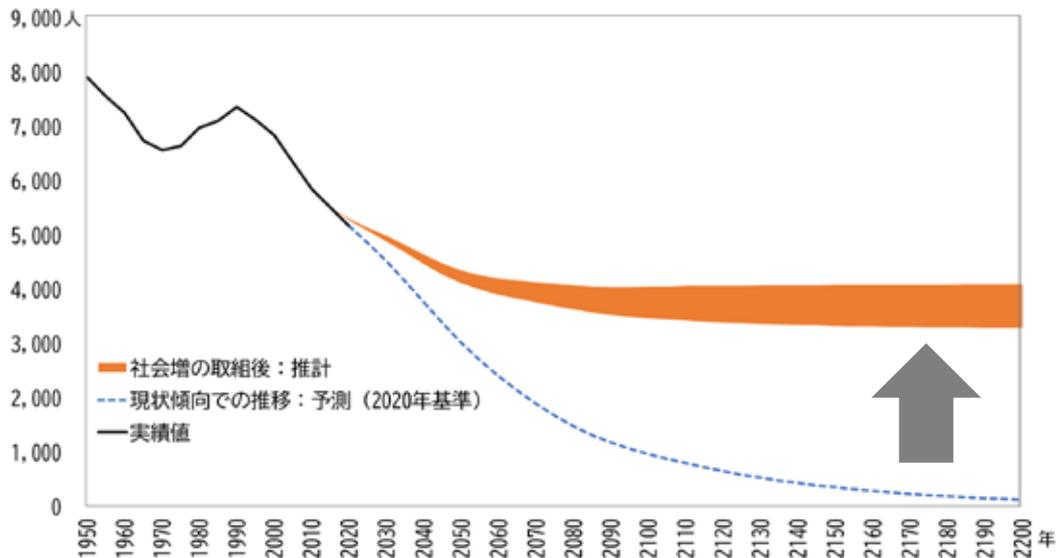
将来の人口のフレームは、人口ビジョンを踏まえ、目標年次である 2029 年（令和 11 年）に、4,800 人とします。

将来人口フレーム 2029 年（令和 11 年）の人口ピラミッド



2019 年（平成 31 年）4 月 5,560 人
 2024 年（令和 6 年）4 月 5,114 人
 ↓
 2029 年（令和 11 年） 4,800 人

明日香村の目指す人口の将来展望（明日香村人口ビジョン）



推計結果によると、総人口が減少することに加えて、働き手・子育て世代と年少人口の減少が想定されます。高齢者から若者世代・子どもまでバランスのとれた人口構成を保ち、将来にわたって一定人口を維持していく必要があります。

そのために、現状の「転入・転出の状況を改善（社会増をふやす）」を目標とし、

特に、「30 歳代 + 子ども」の定着・受入を積極的に進める

30 歳代の予備軍である「20 歳代」の定着・受入を進める

ことにより、将来的に 3,200 ~ 4,000 人程度の人口を目指します。

注：予測（2020 年基準）の 2070 年以降は、過去の推移に基づく人口推移データを基に機械的に年数を延長して算定した数値。

交流人口のフレーム

ハード・ソフトの一体的な対策により進学や就業で転出した村民や本村に関心を持つ都市住民のUターンを促進することで、本村の歴史的景観を守り、地域社会を維持していくことが求められます。

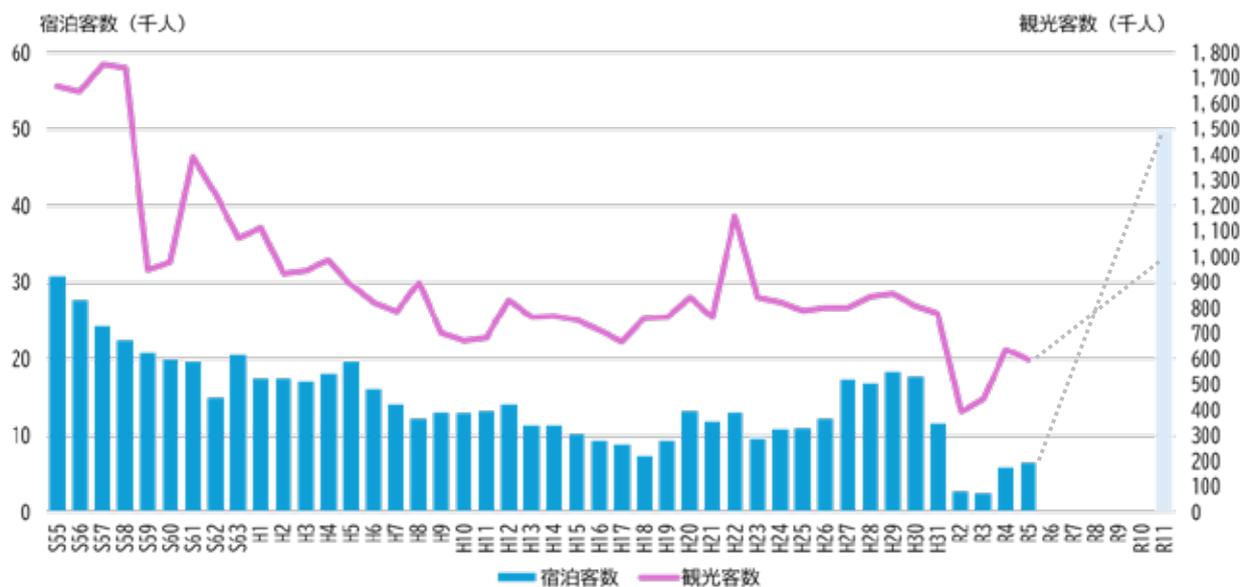
そのためにも、交流人口の増加を図り、さらに村に関心を持つ関係人口の増加を目指すことが求められます。

今後の観光産業の振興を踏まえて、交流人口として観光客数と宿泊者数の2つのフレームを設定します。

観光客数 2019年（令和元年） 80.8万人
2029年（令和11年） 100万人/年

宿泊者数 2019年（令和元年） 2.0万人
2029年（令和11年） 5.0万人/年

交流人口（明日香村観光客数・宿泊者数）フレーム



村づくりの基本方針

1

村民が 「健康に暮らし、次代を担う子どもたちが育つ村づくり」

誰もが健康で夢を持って暮らせる環境や次代を担う人材が育つ環境をみんなで作っていきます。

2

全村まるごとを活用した 「活力ある村づくり」

村全体の景観や貴重な文化財をはじめとする村にある特徴的な資源を最大限に活用し、村全体が観光を基軸とし農・林・商・工の分野がそれぞれ活気づく活力ある村づくりを行っていきます。

3

「明日香らしいたたずまいを感じられる村づくり」

明日香らしい古都の「たたずまい」を感じられる歴史的風土を村民が、行政が、明日香村に関心を持つ方々が、それぞれの立場で自然の彩りの育成や歴史的文化的資源の見える化、文化の継承や創造に取り組んでいきます。

明日香村の指標



転出者より転入者が
多くなる

※人口社会増 30 人 / 年



人が訪れ交流が生まれ
経済が活性化する
(宿泊者増)

※宿泊客数 5 万人 / 年



歴史展示をすすめ
世界に明日香村を発信する

村づくりの体系

～ 志縁活動 ～ 企業・大学・NPO 団体など

～ 地縁活動 ～ 大字・消防団・老人会・婦人会など

くらしの環境づくり

①子育て ②教育・生涯学習 ③福祉 ④健康・医療

社会基盤づくり

⑨生活環境・定住促進 ⑩安全・安心な暮らし

～ 五感で体験 ～

明日香まるごと博物館づくり

⑤農・林・商・工業 ⑥観光振興・雇用創出
⑦歴史的風土の保全活用 ⑧文化の継承と創造

日本
遺産

世界
遺産

観

見どころ

感

体験

泊

宿

食

食事処

買

お土産

志縁活動
地縁活動

ボランティア団体、NPO 法人、スポーツクラブなど特定の目的で集まった組織による活動
自治会、PTA など居住地域を対象とした組織による活動

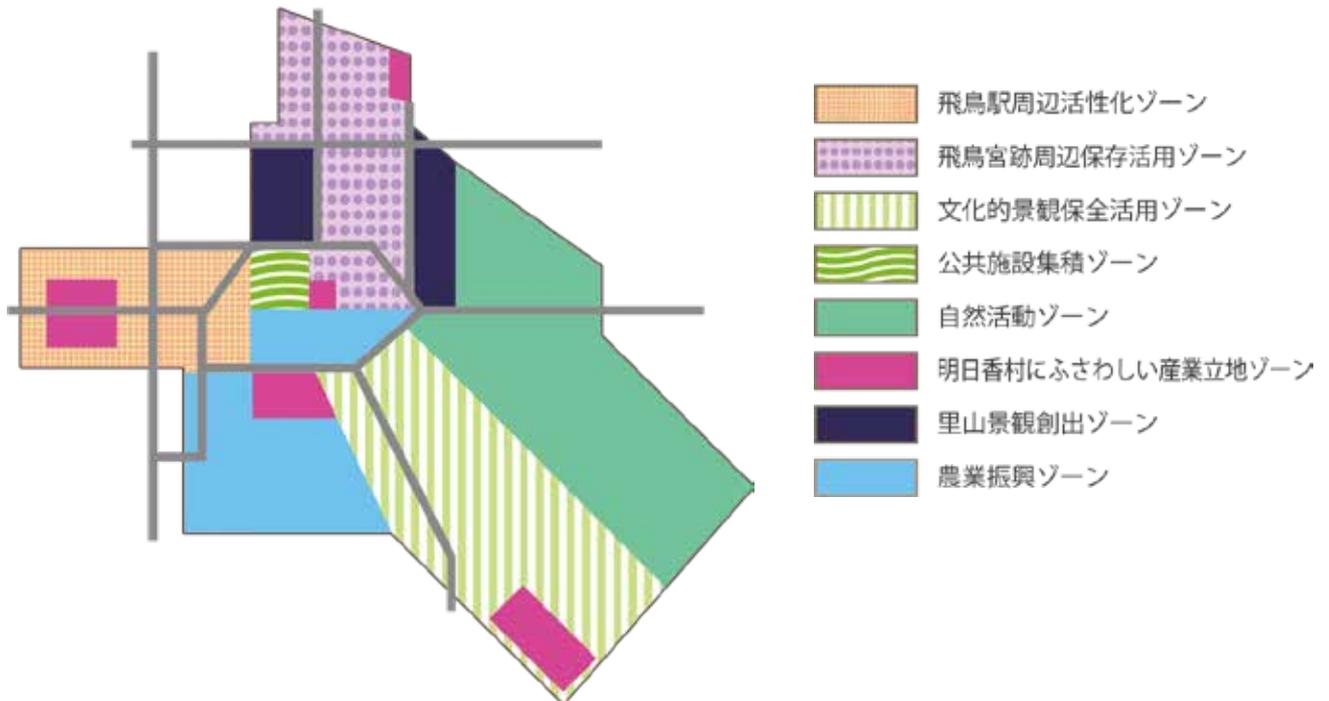
地域づくりの方針「明日香まるごと博物館」

村全体を、「飛鳥京歴史ゾーン」「古墳ゾーン」「自然ゾーン」のエリアがある、屋根の無い「明日香まるごと博物館」として、地域づくりを実施します。

「見る・泊まる・食べる・買う・感じる」をキーワードに、観光を軸として、農業や林業、商業などを活性化させる観光振興策を展開します。



明日香村の土地利用



飛鳥駅周辺活性化ゾーン

国道沿いには、村民の生活を便利にし、来訪者をもてなし、交流するための施設の誘致を優先的に行います。市街化区域では一般住宅の建設による定住を促進します。

また、価値のある古墳群を活用した広域連携による周遊の場や農業体験などの都市農村交流の場として村の魅力発信を図ります。

飛鳥宮跡周辺保存活用ゾーン

飛鳥宮跡、飛鳥京跡苑池を適切に保存活用し、飛鳥時代を体感できる空間を創ります。

隣接する集落では、歴史をゆっくり味わうための宿泊施設や、歴史探索でホッと一息つける喫茶店や飲食店など賑わいを創るとともに、芸術や伝統的な芸能を体感できる場も創ります。

文化的景観保全活用ゾーン

棚田や集落の風景を守り、それぞれの集落が昔から培ってきた伝統行事や暮らしの中での飛鳥川や山林との関わりなどの営みを守ることで、後世に伝えます。

さらに、都市住民が滞在して自然を体験し、村民と交流する取り組みを促します。

※農住環境の拡充

これらゾーンの特性と重ねて既存集落及びその周辺での住宅開発など農住環境の拡充を目指します。

公共施設集積ゾーン

役場、公民館、健康福祉センター、診療所など公共施設を集積することで、村民が効率的に利用できるコミュニティ拠点を育成します。

また、村内外の人々が交流し、情報交換する場の空間を創出します。

自然活動ゾーン

森林・棚田景観の保全など景観形成を進めつつ、樹種転換などの森林整備や間伐材の有効利用における自然体験の場としての活用の展開を図ります。

明日香村にふさわしい産業立地ゾーン

明日香村の歴史や風土に共感する企業の誘致や起業を促進し、明日香村の経済活性化を図ります。

里山景観創出ゾーン

飛鳥宮跡を取り囲む里山は、樹種転換により四季の彩りを感じられる里山景観を創出します。

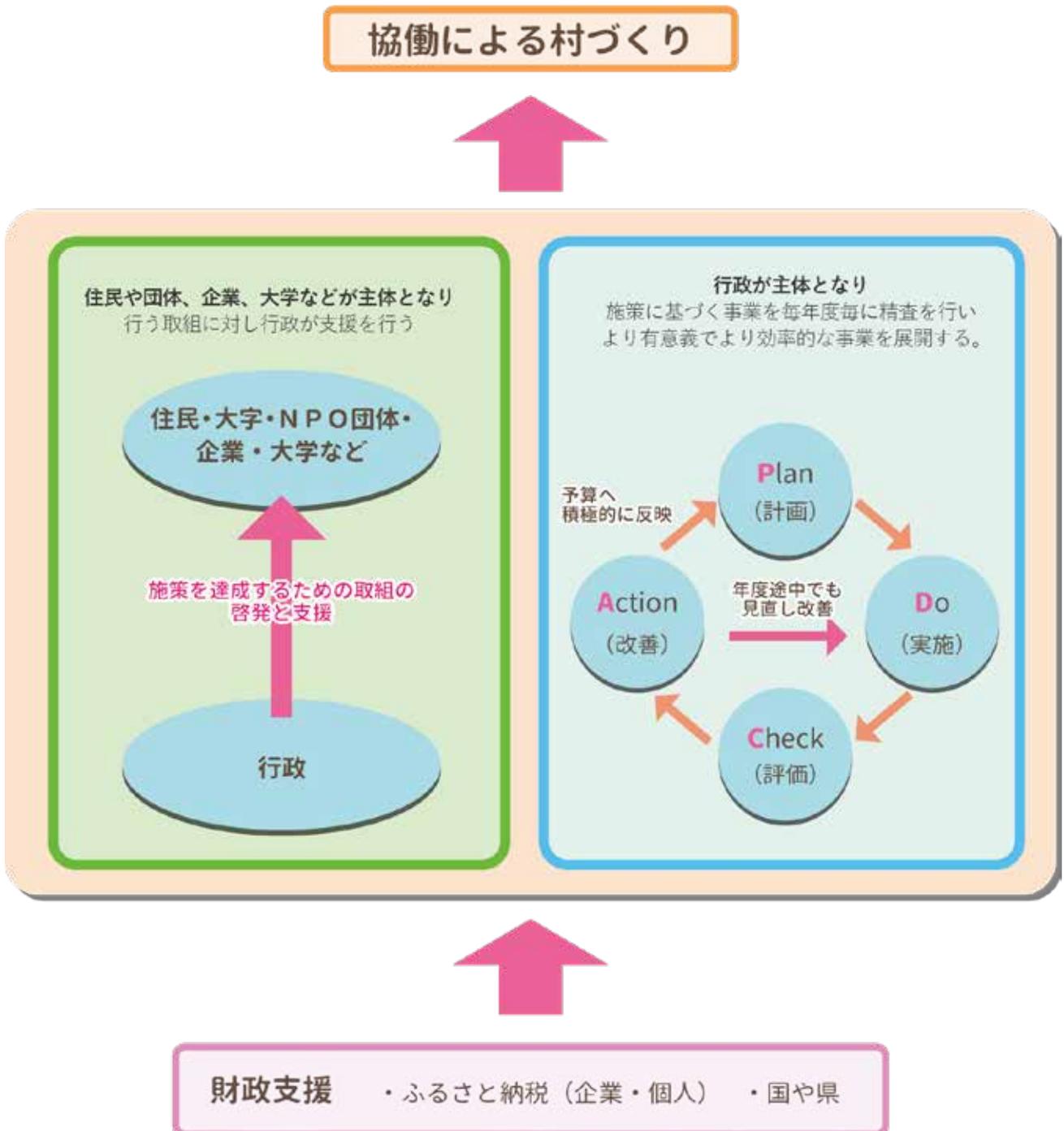
農業振興ゾーン

点在する当時の天皇や皇族などの陵墓と歴史的景観が調和した独特の景観を創出するとともに、野菜や果樹、米など生産農業の促進を図りながら、観光農園・オーナー制度など農業を通じた交流が生まれる展開を進めます。

柔軟かつ着実な取組みを推進するために

様々なノウハウや考えを持った多様な人材が明日香村を支えるパートナーとして、みんなで地域課題を克服できる明日香村を目指す、協働による村づくりを進めます。

また、国・県の補助制度等の効果的な活用により計画的な財源確保、D Xの効果的な活用、公共施設の有効活用を図る、効率的な行財政及び村づくりを進めます。



後期基本計画の体系

基本構想

目標（将来像）

「いつまでも住み続けたい」
 そう思える夢ある村
 （くらしの環境づくり）

五感で体感できる
 「明日香まるごと博物館」
 （活動・交流のむらづくり）

むらづくりの基本方針

村民が「健康に暮らし、次代を担う子どもたちが育つ村づくり」

全村まるごとを活用した「活力ある村づくり」

「明日香らしいたたずまいを感じられる村づくり」

政策指標

転出者より転入者が
 多くなる
 人口社会増 30人/年

人が訪れ交流が生まれ
 経済が活性化する
 宿泊者数 5万人/年

歴史展示をすすめ、
 世界に明日香村を発信する

重点プロジェクト

重点プロジェクト

プロジェクト1 / 暮らし
心豊かな生活のための支援環境づくり

“あすか”を愛し、村で暮らしたいと思える、安心して健やかで心豊かな生活のための支援環境を整えます。

プロジェクト2 / 活力ある村づくり
世界遺産登録を見据えた活力ある村づくり

飛鳥の宮都を構成する資産を活用し、関係人口の増加による観光を軸とした持続可能な地域づくりを推進します。

プロジェクト3 / 明日香らしいたたずまい
唯一無二の歴史的風土を後世に引き継ぐ

日本の心のふるさとと言われる歴史的風土を、明日香村の価値を理解する人を増やし、多様な主体の協働により後世に引き継ぐ取組を仕掛けます。

施策指標

小学校の1学年平均人数
 41人（R5） ➡ 40人（R11）

観光来訪者1人当たりの村内消費額
 4,273円（R5） ➡ 5,000円（R11）

明日香村についてとても誇りに感じる（村民アンケート調査）
 35%（R6） ➡ 40%（R11）

後期基本計画

テーマ別施策

1 子育て

「明日香村で子育てがしたい」ニーズに応えられる環境づくりに取り組みます。

2 教育・生涯学習

子どもたちが郷土に誇りをもち明日香村を支える人になれる取り組みを進めます。
生涯を通じて、地域スポーツ活動や学ぶ機会を創出します。

3 福祉

村民だれもが生涯にわたり、互いにつながり、支え合い、健やかで、自分らしく暮らせる地域を目指します。

4 健康・医療

健康寿命の延伸を図り、生涯健康・生涯現役の村づくりを進めます。

5 農・林・商・工業

明日香ならではの資源を活かし、集い働き住みたくなる村づくりを目指します。

6 観光振興・雇用創出

明日香村の資産を最大限に活かし、「明日香まるごと博物館」づくりにより、体験・滞在・交流を通じて、観光振興により明日香村を元気にすることを目指します。

7 歴史的風土の保存活用

本村の歴史的風土を適切に保存活用し、次世代に継承していくことをめざします。

8 文化の継承と創造

明日香らしい文化を継承するとともに、明日香らしい新たな文化を創造していくことを目指します。

9 生活環境・定住促進

定住したいと思える、地域の特性に応じた住みやすい環境づくりを目指します。

10 安全・安心な暮らし

日頃から災害や犯罪・事故等への備えにより、安全・安心に暮らせる村を目指します。

協働による村づくり（みんなで進めてもらいたいこと）：様々なノウハウや考えを持った多様な人材が明日香村を支えるパートナーとして、みんなで地域課題を克服できる明日香村を目指します。

効率的な行財政及び村づくり：国・県の補助制度等の効果的な活用により計画的な財源確保、DXの効果的な活用、公共施設の有効活用を図ります。

個人版ふるさと納税額 24.6 百万円/年（R5）➡ 100 百万円/年（R11）

防災情報メールおよび公式 LINE 登録者数 714 人（R5）➡ 1,000 人（R11）

プロジェクト1 / 暮らし

心豊かな生活のための支援環境づくり

“あすか”を愛し、村で暮らしたいと思える、安心して健やかで心豊かな生活のための支援環境を整えます。



胎児期・幼年期 0～5歳	年少期 6～18歳	青壮年期 19～44歳	中年期 45～64歳	後年期 65歳以上
-----------------	--------------	----------------	---------------	--------------

「明日香村で子育てがしたい」ニーズに応えられる環境づくり

- ・「産む」「育てる」の支援
- ・子育て情報の発信、相談体制の充実 等

多様な保育ニーズに対応した保育サービスと幼児教育の充実

- ・就学前教育環境の充実
- ・安心して働ける子育て環境づくり 等

子どもたちが郷土に誇りをもち明日香村を支える人になれる取組の推進

- ・幼・小・中一貫教育の推進
- ・地元食材を活かした安心・安全な学校給食の提供

生涯を通じて地域スポーツ活動や学ぶ機会の創出

- ・総合型地域スポーツクラブの充実などスポーツ活動の推進
- ・図書機能の充実や公民館講座など生涯学習機会の提供

生涯健康を目指しライフステージに応じた疾病予防と健康増進

- ・奈良県立医科大学と連携した生活習慣病の発症及び重症化予防などの健康づくり事業 等

いつまでも自分らしく活躍し暮らせる環境づくり

- ・見守り強化や買い物サポートなどの地域住民による支え合い活動の推進
- ・在宅医療と介護の一体化による「トータルケアステーション」の体制整備 等

プロジェクト2 / 活力ある

世界遺産登録を見据

飛鳥の宮都を構成する資産を観光を軸としたサステナブル



飛鳥の宮都を体感できる

- ・飛鳥京歴史ゾーンの核となる中核ガイダンス施設とされる県と、そこから石舞台古墳や水落創出を図る。

飛鳥駅周辺の機能の向上

- ・交通の結節点であり、来訪者に周辺において、来訪者・住民が

“なりわい”づくり

- ・6次産業化など地域特産品の創
- ・観光農業による農業経営の基盤
- ・商業を活性化させるため村内起業の促進
- ・明日香の歴史的価値を高めるた効果的な活用 等

村内を周遊しやすい環境

- ・定時定路線による赤かめ周遊バ
- ・周遊バスを補完するタクシー車
- ・デジタルなど新しい技術を活用観光力の向上 など

村づくり

えた活力ある村づくり

活用し、関係人口の増加による
な地域づくりを推進します。



まちづくり

史跡整備を促進し、世界遺産登録時の
立万葉文化館周辺の観光等機能向上
遺跡に至る道路沿いに“にぎわい”の

とって本村の玄関口となる飛鳥駅
ともに利用しやすい機能の向上を図る。

出と流通経路の確保、体制強化、
強化
業等の育成と空き家等を活用した

めの世界遺産登録の推進や日本遺産の

づくり

スの運行と広域的な移動手手段の確保
両によるデマンド乗合交通の運行
したオーバーツーリズムの抑制や

プロジェクト3 / 明日香らしいたたずまい

唯一無二の歴史的風土を後世に引き継ぐ

日本の心のふるさとと言われる歴史的風土を、明日香村の価値を理解する人
を増やし、多様な主体の協働により後世に引き継ぐ取組を仕掛けます。

明日香村の価値



農村風景の保全

- ・農地・林地を保全するための戦略づくり
- ・農村RMO組織による関係人口受入れ体制構築
- ・農業を支える担い手の確保・支援
- ・農村を守るための獣害対策強化 等

集落景観の保全

- ・空き家バンク制度の利用促進
- ・建築物等の修景支援や大字景観計画などによる良好な集落景観の創出
- ・道路など公共施設整備における景観への配慮

埋蔵文化財等の価値の創出

- ・デジタル技術等も活用し、文化財調査により解明した価値のわかりやすい展示と情報発信
- ・埋蔵文化財等の本物を体感できる機会の創出や「見える化」の整備促進
- ・明日香の歴史的価値を高めるための世界遺産登録の推進や日本遺産の効果的な活用
- ・文化財の価値や歴史的風土を理解できる視点場の創出

明日香らしい文化・芸術の創造と継承

- ・地域祭礼行事や伝承芸能が継承しやすい環境づくり
- ・明日香の匠展、明日香村文化祭などによる村民が、文化や芸術に関わる機会創出
- ・飛鳥アートビレッジや伎楽の再現など、新たな文化の創造 等

第5次明日香村総合計画 概要版

令和7年3月 発行・編集 明日香村 総合政策課
〒634-0142 奈良県高市郡明日香村大字橘21番地
TEL : 0744-54-2001 (代) FAX : 0774-54-2440